

月 日

点検実施計画書

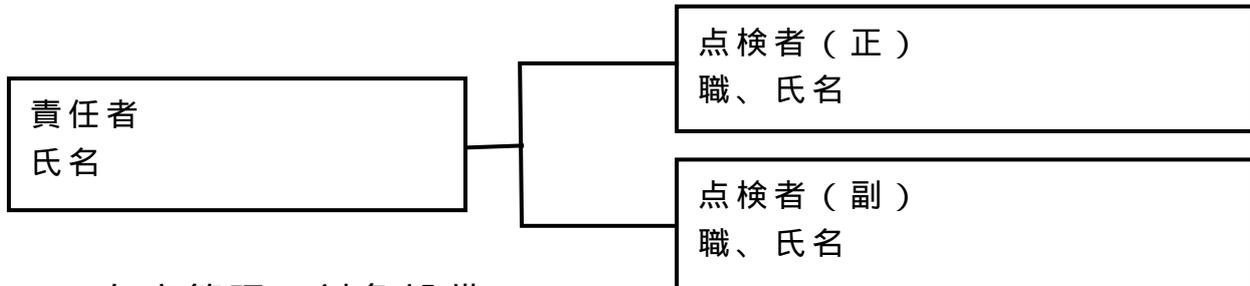
事業所名

所在地

点検実施計画書

1 点検実施体制

点検実施に当たり、在庫管理に係る点検が適正に実施される体制を整えるため、責任者及び正、副の点検者を定めなければならない。



2 在庫管理の対象設備

点検管理の対象設備を下記に記載する。

地下タンク

タンク No	油種名	容 量	構 造	タンクの種類
		KL	一重殻・二重殻	

漏えい検査管

No 1 ~ No () 合計本数 ; () 本

3 点検実施体制へ関与する者への教育体制

点検責任者は、点検実施者に対して以下の教育を実施するものとする。

対象者	実施時期	内 容
点検実施者	1回/年 点検業務を開始した時及び点検実施者が交代した場合は、随時実施する。	(1) 義務等に関する基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> ・点検実施計画書の意義・目的の理解 ・点検管理に関する消防法の理解 ・点検管理の対象となる設備の理解 (2) 在庫管理の点検方法及び記入方法 (3) 漏洩検査管の点検方法及び記入方法 (4) 異常時の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・異常の判断基準の理解 ・異常時対応手順の理解

4 点検方法

(1) 漏えい検査管により確認に加えて、危険物の貯蔵または取扱数量の $1 / 100$ 以上の精度で在庫管理を行うことにより、1 週間に 1 回以上危険物の漏れを確認する。

(2) 漏えい検査管点検方法

- ・専用工具またはプライヤー等を使い、蓋を開ける。
- ・漏えい検査管内に 3 ~ 5 m 程度の金属製巻尺または棒を挿入し、金属製巻尺等に油分が付着していないか臭いまたは目視で確認する。

(3) 在庫管理の方法

在庫管理を実施する際の在庫量の測定方法は、それぞれ下記の測定機器・器具を用いて行うこと。

遠隔式液面計

地下タンクに内蔵された液面感知装置と屋内に設置された液面表示装置が有線または無線で遠隔通信されていることから、屋内の液面表示装置の数値を読み取り、在庫量を計測する。

計測したデータは、必要に応じプリントアウト（印刷）して確認することができる。

タンク直上式液面計

地下タンク上部に設置された液面計測器の数値を読み取り、在庫量を計測する。

計測に当たっては、液面計が設置されているタンク上部マンホールを開け、液面計の数値を直接読み取る。

読み取り誤差がでないように、必ず液面計の真上から計器の数値を確認すること。

検尺棒

- ・検尺棒は、タンク容量に対して $1 / 100$ 以上の精度の目盛りが刻まれたものを使用する。
（例：10 KL タンクの場合は、最小目盛り 100 L で刻まれたものを使用する。）
- ・タンク上部マンホール内に設置されている検尺口を開け、専用の検尺棒を地下タンクの底板に当たるまで静かに挿入し、速やかに引き上げ、検尺棒に付着した油の位置を読み取り、在庫量を計測する。
（なお、検尺棒の液面付近に、油に反応（変色）する薬剤を塗布して計測すると、より読み取りやすく、正確に計測できる。）
- ・ローリー荷卸し時や直後は、地下タンクの液面がゆれているので、在庫量の計測は行わない。
- ・在庫量の読み取りは、検尺棒に付着した油の位置を読み取ることにするが、付着した油の位置が目盛りと目盛りの間にある場合は、目測で目盛り間を 10 等分して読み取るようにする。

(例：10KLタンクで、5100Lと5200Lの間に、付着した油の位置がある場合に、その位置がほぼ中間であれば、5150Lと読み取る。)

5 異常の判断

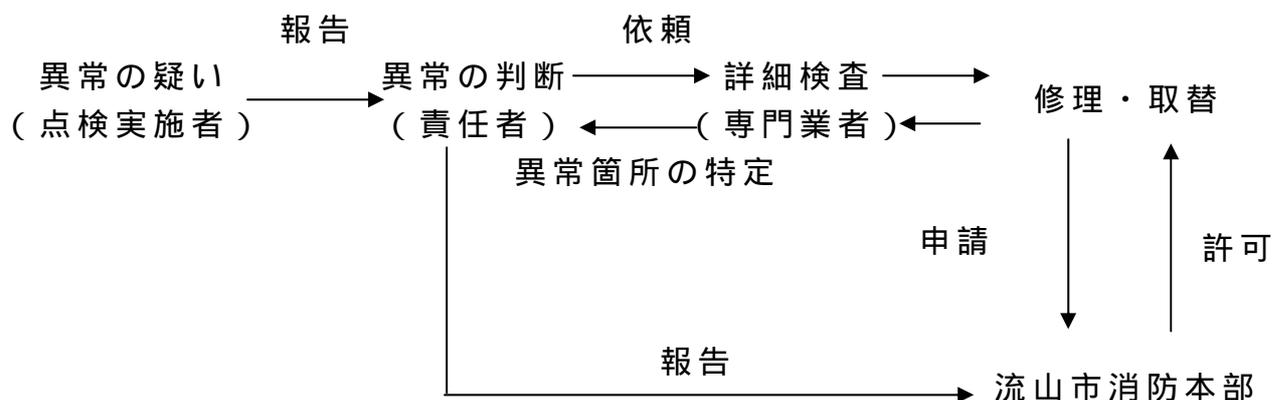
(1) 在庫管理時の異常

- ・週1回以上実施する在庫管理において著しい増減が発生した場合は異常と判断する。

(2) 漏えい検査管点検時の異常

- ・挿入した金属製巻尺等に著しい油分の付着が認められた場合は異常と判断する。
- ・漏えい検査管から著しい油臭がするか、または挿入した金属製巻尺等に著しい油分の付着が認められた場合は異常と判断する。

6 異常時の対応



点検実施者は上記5.に記されている異常が疑われた場合は、速やかに〔責任者〕に報告する。

〔責任者〕は、点検実施者から報告された「異常の疑い」が油漏えいによる異常であると判断された場合は、速やかに流山市消防本部に報告するとともに、専門業者に点検を依頼する。

専門業者より異常の報告を受けた場合は、流山市消防本部と相談の上、適切な修理・取替を計画し、申請、許可を受け、速やかに復旧工事を実施する。